

研究会の視点

- 子ども自身が、単元を通して実現していきたい(当面の)目的を自覚し、現在取り組んでいる学習活動の意味や流れを理解し、自分事として対称と向き合うことができていたか。また、それをもとに、本時の意味ややることを理解し、主体的に学習活動に取り組むことができていたか。
- 本時課題が子どもたちの思いや願い、思考に沿った、子どもたちに意味のあるものになっていたか。
- 「本時の学びどころ」に整理されている教師の意図が授業の中(特に、ふかめる)で見られたか。それが子どもたちの学習活動や思考に沿ったものになっていたか。それによって子どもたちに変容は見られたか。

4・5組(大西・今井級) 「スマイル お話とどけ隊」

【担任の意図】

グループの友達と協力して演じる中で台詞や人形の動きを工夫したり、関心をもって観たりすることができる。

【授業の様子】

友達の発表に関心をもって観ることができ、感想を言う姿も見られた。練習ではタブレットを使って自分たちの演技をその場で確認することで、人形の動きや自分の話し方に気付くことができた。4グループが2か所に分かれて練習をしたが落ち着いた子もいたので、集中できる内容、支援を考えていく。



1年1組(片岡級) 「なかよしごう～スーパー1ねんせいになろう～」

【担任の意図】

リハーサルをすることで、幼稚園の年長の気持ちを考えたり、友達と良い点や改善点を話し合ったりし、当日どんなことを目標にして取り組むか考える。

【授業の様子】

子ども達は、当日の会を盛り上げるために、どんなことに気を付ければよいか考えることができた。会の内容がたくさんあったので、とても忙しい1時間になってしまい、年長さんの気持ちを考えることが難しかった。寄り添える内容にしたい。



4年2組(堀内級) 「元気がミソです。おみそしるで戸部を元気に！」

【担任の意図】

食生活改善推進員の方との味噌汁作りやその味噌汁を食べた経験から、味噌汁で元気になる理由を話し合っってその魅力を知り、より味噌汁を材にして活動することへの思いを高める。

【授業の様子】

子どもが味噌汁作り楽しさを感じたことは、話し合いの中で伝わってきた。「元気になる。」という部分があいまいだったため、子どもたちの話し合いもあいまいなまま終わってしまった。もっと課題を明確にして話しあえるようにしていきたい。



5年1組(小川級) 「とべまち ほ☆スター発見隊」

【担任の意図】

○酒店を取材して気付いたことから、よりポスターで伝えたい内容は何かを目的に沿って話し合い、○酒店の店主の○さんの人柄や温かさを感じ取ることができるようにする。

【授業の様子】

子どもたちが○酒店について調べたことを拡散的に話し合った後、論点を「優しさ」というキーワードに絞り、3人組で内容を深めようとした。論点を「優しさ」としたことによって、本来もつお店のよさや人柄が大きな言葉でまとめられてしまい、実態が見えづらくなっていた。論点の絞り方をより向上させたい。



講師の先生から

- 見る視点をグループでなく、全体で統一し、ブレないようにするとよい。(個別支援級)
 - 少しずつ本物になっていくよう、心や中身が繋がっていく活動の見通しをもつとよい。(生活)
 - 指導案の中の「学びどころ」や「しかけ」が統一し、整合性をもたせていくようにする。(総合)
 - 指導案には共同性が表れる。互いに読めば気が付くことをきちんと見直すようにして、共同研究の意味を成すように。(全体)
 - 教師は、音声で共感しながら反応していること。そのうえで、教師が意図するところは繰り返したり、「なるほど」と言ったりする。そして、キーワードを取り出し、板書に構造化して表す。(全体)
 - その音声と板書とで、子どもは、自分のもっていた情報を再構成して話すようになる。(全体)
 - 子どもの状況を判断して、授業形態を変えていくことができるように。(全体)
- ＜授業から＞
- 子どもの考えが枯渇していると判断したとき、ホワイトボードを活用したことで離れていった子どもが、また話合いに戻ってくる。子どもは、自分の考えを出し切って内的なものが失われたときに、外的なもの（グループで少人数での意見の交流）に新しい発見がないと、出さなくなる。
- 振り返りに入り込むまでに30秒ぐらいで書き始めるのが理想。(全体)